

フォーラム・セミナー報告

COIL(国際遠隔交流学習)に関する
国際シンポジウム&ワークショップを開催

関西大学千里山キャンパスで12月6日、COIL(Collaborative Online International Learning)国際シンポジウムが開催された。COILは、ICTを用いてバーチャルに海外の教育機関のクラスと交流学習を行う教育活動のことである。異文化交流として、共修学習の一環として、そして英語などの外国語を用いた学習活動をより活性化する手段として、COILは大変有効であり、現在米国だけではなく世界各国にて、特に国際教育の場面において着目されている。本学では、平成26年度にニューヨーク州立大学(SUNY)の2キャンパス、そしてスコットランドにあるGlasgow Caledonian UniversityとのCOIL活動を合計3科目において実施し、さらにこの取組について広く知ってもらうことを目的とし、2014年12月6日にCOIL Center所長のJon Rubin教授を招いて国際シンポジウムを開催した。シンポジウムは国内外合計121名の参加(学内関係者を含む)があり、楠見晴重学長の関西大学の国際化、国際教育カリキュラムの重要性を示唆したオープニングの挨拶を皮切りに、文部科学省からも国際企画専門官の佐藤邦明氏の講演があり、国家



2014年12月6日尚文館AVメディアホールにて



2014年12月7日関西大学新北棟にて

施策としての学生モビリティの推奨運動とCOILの関係性についてご見解をご提示いただいた。午後のパネルセッションでは、先述の3科目でのCOIL実践の報告をSUNYからシンポジウムに参加いただいた3名の教職員と関西大学側の担当者らが行った。報告の最後には、アメリカからこのイベントのために来日した2名のSUNYの学生と、COILを通じて良き友となった本学の学生達(日本人学生3名、交換留学生3名)が登場し、実際の「参加者の声」として英語で感想を述べるといった場面も設けられた。COIL実践報告の他にも、学習管理システム(LMS)や台湾およびドバイから招へいた研究者らによる各国の教育・テクノロジー事情に関する発表もあり、盛りだくさんのプログラムとなった。12月7日には、学内10名、本学の協定大学である又

松大学(韓国)、正修科技大学(台湾)、そしてCOIL発祥の地であるニューヨーク州立大学などから10名が参加し、半日のワークショップにて海外大学との交流学習を「単なる社会的な交流」に終わらせない教育活動の計画の仕方、指導の与え方、学生の活動の評価の仕方など、実践で役立つノウハウをCOIL Centerの所長とSUNYのインストラクショナルデザイナーから伝授いただいた。このワークショップの参加者らとのCOILが平成27年度に予定されている。今後COILは「KU-COIL」として学内の多様な科目において実施されるようになっており、このシンポジウムを契機に、さらに多くの海外大学とのCOILを通したパートナーシップが成立することが期待されている。

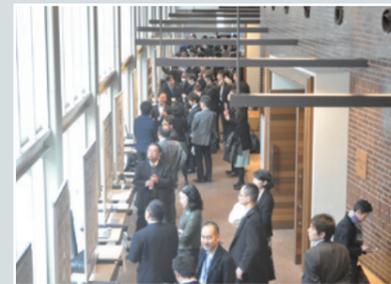
(国際部 池田佳子)

日時：12月6日(土)
場所：尚文館AVメディアホール
日時：12月7日(日)
場所：関西大学新北棟

シンポジウム
「反転学習はディープ・アクティブラーニングを促すか？」
を開催しました。

2月24日(火)に千里山キャンパスで、シンポジウム「反転学習はディープ・アクティブラーニングを促すか？」を開催しました。このシンポジウムは、文部科学省の平成26年度「大学教育再生加速プログラム」に、本学が申請した「21世紀を生き抜く考動人<Lifelong Active Learner>の育成」事業が選定されたことを受け、取り組みの一環として行われたものです。特に今回、アクティブラーニングのみならず、ディープ・アクティブラーニングと題したのは、本学が今後取り組むアクティブラーニングが単なる活発な学習活動にとどまらず、より深い思考や理解を伴うアクティブラーニングを目指していることがその理由となっています。

シンポジウム第1部は、反転学習の実践者および研究者21組が日ごろの成果をポス



ポスターセッションの様子

ター形式にして発表し、参加者と熱く議論を行うポスターセッションから始まり、「ディープ・アクティブラーニング」をテーマに、東京大学大学院情報学環学際情報学府の山内祐平教授からは高次育成能力のあり方について、また京都大学高等教育研究開発推進センターの溝上慎一氏からはアクティブラーニングとトランジションをテーマにご講演いただきました。そして第2部では、基調講演として東京大学の吉見俊哉副学長兼大学総合教育研究センター長にご登壇いただき、反転学習へのMOOCの活用をはじめ、自身の反転授業実践事例などを紹介いただき、未来の大学教育のあり方やその方向性についてお考えを伺いました。

第3部のパネルディスカッションでは、本学の青田浩幸学長補佐も加わり、反転学習で大学教育がどのように変化するかをメインに、終始白熱した議論が繰り広げられ、約200人の参加者は、これからの反転学習やアクティブラーニングについて知見を深めました。

事後アンケートの結果、90%以上の参加者が「参考になった」と回答し、「ポスターセッションが大変参考になった」や「アクティブラーニング

日時：2月24日(火)13:30～19:00
場所：第2学舎4号館BIGホール100



パネルディスカッションの様子

と反転学習の関係性、その組み合わせの困難な点の話はこれまでの認識を整理できてスッキリした」「新しい観点を得られた」などの意見が多く寄せられました。

(教育推進部 森朋子)



講演の様子

FDフォーラム
大学教育再生加速プログラム採択記念シンポジウムを開催しました

2月21日、「関西大学第12回FDフォーラム/大学教育再生加速プログラム採択記念シンポジウム」を開催しました。

午前は、シンポジウム、午後は参加者参加型のワークショップをおこないました。シンポジウムでは、『21世紀を生き抜く考動人<Lifelong Active Learner>を育成するために～未来を切り開く交渉学～』というテーマで、交渉学の研究分野で第一人者である、東京富士大学経営学部経営学科教授、隅田浩司氏より、「交渉学への誘いー交渉学の展開とグローバル人材育成における交渉学教育」についてご講演いただきま

た。さらに、金沢工業大学大学院知的創造システム専攻 客員教授、一色正彦氏より、「交渉学教育の実践例ー日本向け教育プログラム開発と大学・企業の実践例」と題して



隅田先生講演の様子

ご講演いただきました。

午後は、『交渉学ワークショップ:社会人と学生の交流ワーク』を学生と社会人が混合グループとなり、全員参加型のロールシミュ

日時：2月21日(土)10:00～12:30 / 13:30～18:00
場所：第2学舎2号館C303教室 / 第2学舎2号館C304教室

レーション形式で模擬交渉を体験学習しました。参加者の皆さんは、2つの交渉ケースを経験し、初めての模擬交渉に楽しみながら取り組んでいました。

参加者は総勢、午前、109名、午後、115名でした。午前の内訳は、社会人(55名)、学生(19名(本学学生12名、他学学生7名))、社会人TA(18名)、本学教職員(17名)



一色先生講演の様子

でした。午後の内訳は、社会人(42名)、学生(38名(本学学生24名、他学学生14名))、社会人TA(18名)、本学教職員(17名)でした。AP取得後、初めての交渉学のシンポジウム・ワークショップでしたが、100名を超える熱心な参加者に恵まれました。

(教育推進部 山本敏幸)



ワークショップの様子



交渉の準備グループワークの様子